

令和元年度第2回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

日 時	令和元年10月31日（木） 15時00分～16時30分
場 所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
出 席 者	【委員】（名簿順・敬称略） 浅井 真嗣 小牧市医師会 在宅医療推進委員会委員長 磯村 千鶴子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター 佐々木 成高 小牧市歯科医師会 芥川 篤史 医療法人純正会 小牧第一病院院長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長兼患者支援センターセンター長 渡邊 紘章 小牧市民病院緩和ケアセンター部長 三谷 敏江 小牧市民病院患者支援センター入退院支援室室長 大野 充敏 小牧市介護支援専門員連絡協議会副会長 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 岡 良伸 小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会幹事 大橋 弘育 小牧市リハビリテーション連絡会会長 水野 浩平 愛知県春日井保健所次長 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課長 小林 永尚 味岡地域包括支援センター管理者 【代理出席】 山本 将裕 小牧市薬剤師会 【欠席委員】 入江 慎介 健康福祉部地域福祉担当次長 【事務局】 山田 祥之 健康福祉部部長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長 西島 宏之 健康福祉部 保健センター所長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 岩下 貴洋 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係 長谷川えい子 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係
傍 聴 者	0名
配付資料	次第 資料1：進捗状況報告シート 委員提出資料 ・こまきつながるくん連絡帳の活用状況（小牧市）

○ 主な内容

1. 開会

（1）あいさつ

2 議題

（1）これまでの課題の進捗状況について

- ・ 資料1：進捗状況報告シートを用いて、各委員より説明。

（ア）地域の医療・介護の資源把握

（１）歯科医の訪問歯科診療の実施状況

佐々木委員）

- ・ 訪問診療対応表については、医師会と薬剤師会、病院のほか、介護保険サービス事業者等に配布させていただいている。
- ・ 次に、各医院のホームページや歯科医師会のホームページの情報については、チェック、確認し順次修正していく。
- ・ ３番目の衛生士会との会議について、なかなか難しく、衛生士が非常に不足しており、何とか活動できる衛生士を発掘し、今後、考えていきたい。
- ・ ４番目の歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるように、人材バンクの創設ということだが、これについては、理想的だが、難しい。
- ・ ５番目の口腔ケア研修会の開催については、強い要望がないので、今年度は予定していない。
- ・ 施設側から来てほしいとお話があれば、いつでも対応させていただく。
- ・ 訪問診療を実施する会員の先生については、徐々に増えつつある。今後は、隠れている衛生士を発掘していきたいと考えている。

浅井会長）

- ・ 少し話がずれるが、佐々木委員のクリニックには、衛生士がたくさんいると思うが、どのように雇用しているのか。クリニックで募集しているのか。

佐々木委員）

- ・ そうである。

浅井会長）

- ・ 佐々木委員のクリニックが動くと、大きいことが出来るのではないかと考えていたが、難しいか。

佐々木委員）

- ・ 難しい。
- ・ 自分のクリニックでお願いするだけでも難しい。一度、聞いてはみるが。
- ・ 現在、訪問診療をしていただける衛生士を募集しているが、全然来ない状況である。
- ・ 新卒の衛生士は、40 倍の競争率との話もある。少し高過ぎるとは思っているが、修正しても 20 倍ぐらいある。つまり、1 人の衛生士に 20 件の歯科医院が募集をかけている状況であり、確保していくのが困難である。

（ア）地域の医療・介護の資源把握

（２）薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況

山本委員）

- ・ これまでの報告で、24 時間対応できるかなどの調査結果を報告しているが、古い情報であり、今後に向けて、再度調査をかけたいと思う。
- ・ ただ、在宅医療・介護連携委員会を開催はしているが、メンバーは増えておらず、委員会自体の充実を図りたいと考える。
- ・ こまきつながるくん連絡帳の登録者数は、増えてきている。
- ・ 市民病院から、プラットフォームとして、メンバーを増やしてほしいという意見もあるが、個人であったり、薬局としてはやるというところからやっていきたいのだが、今後の充実に向けて、どのようにすり合わせていくかというのが課題である。
- ・ 個人の訪問指導なども集計できておらず、そういったところについても、薬剤師会として集計をしていく必要があると考える。

- ・ また、薬薬連携に向けて、今後、病院から在宅に移行するにあたり、病院の薬剤師と地域の薬剤師が情報を共有してやっていけないかとの意見もある。
- ・ 先日、看取りに関する研修に参加したが、看護師に聞くという人が多い。
- ・ そこで、看護師だけでなく、薬剤師も少しずつ入っていき、麻薬等の認知度を上げていくことで、在宅を希望される方も増えるのではないかと考える。
- ・ そういった連携に向けて、薬剤師がどのように関わっていけるかなどということも発信していきたいなと思っている。

浅井会長)

- ・ 今、麻薬の話が出たが、緊急で必要になるものとして一番多いのは麻薬である。
- ・ 当院では、最近、配置薬をやっているが、置いておいてもらえれば大体はしのげることが多いのだが、麻薬については、急変等があるため、何とかならないかという思いがある。
- ・ 先ほど、24 時間の話もあったが、他の医療機関は知らないが、当院の場合、24 時間体制でなくても、ピンポイントで、例えば、日曜日の朝 3 時間だとか、対応していただけるだけで全然違う。
- ・ 実際、24 時間やらないと点数が取れないなどの問題はあると思うが、もう少し柔軟に対応できる体制があるとありがたいと思っており、薬剤師会として、検討してもらいたい。

渡邊委員)

- ・ 市民病院では、麻薬の初回処方、院外処方箋の薬剤指導も、緩和ケアの薬剤師と看護師が全部実施している。
- ・ 将来的には、院外処方に関しても院内で説明しているので、同じような形で薬薬連携で共有してもらい、院外処方箋でまず初回で出た人を院外薬局側で説明してもらえると、その人が進行したときにつながりができているので、訪問とか在宅につながっていきやすいと思っている。
- ・ 麻薬について、とりあえずは在宅というよりは、外来通院中の人の院外処方から薬薬連携で同じような指導内容とか、フォロー体制ということを作っていってもらえると入りやすいと院内の薬剤師とも話している。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有

伊藤(里)委員)

- ・ サービス事業者連絡会では、介護展を 6 月 30 日に開催し、320 名程の来場者があった。
- ・ 梅雨で、雨天であったが、介護展自体が周知され、来場者も多く、反響があると思っている。
- ・ また、介護保険を知ってもらうための企画を毎年行っているが、今回は、年明けの 1 月 21 日と 23 日に、小針の郷で介護保険制度の簡単な紹介を各事業者連絡会の幹事を中心に行う予定である。
- ・ 医療と介護の連携に向けては、各研修を幹事の方で企画している。
- ・ 今年度は、訪問看護部会で 11 月に「エンドオブライフ・ケアはじめの一步」をテーマに、医療と介護連携の研修をやっていく予定になっている。
- ・ 施設部会では「認知症について」をテーマに、訪問介護・訪問入浴部会では、訪問看護に講師を依頼し、「褥瘡予防」をテーマに研修を予定している。
- ・ 実施に向けての、訪問看護等を中心に医療と介護の連携の課題をテーマに入れ、企画していきたい。
- ・ 事業所には、何度も声かけは行っているが、こまきつながるくん連絡帳の活用が進まない状況である。来年から、駐車場関連の新しい企画も入ってくるため、その旨も説明をしている。

が、どうしても登録者数が増えていかず、今後も課題になると考える。

小林委員)

- ・ 連携について、居宅介護支援事業所で5つのグループに分かれ、3カ月に1度程度、事例検討会を開催されており、そこに包括の職員も参加している。
- ・ こちらに向けての課題として、居宅と包括の間で垣根があると感じており、そういった垣根がなく、同じケアマネジャーとして参加をさせていただくような関係性を構築していきたいと考えている。
- ・ 包括では、各圏域で事業所交流会を行っており、今年度については、5つの包括合同で2回に分け開催している。
- ・ 9月2日に小牧、南部、北里圏域で実施し、内容としては、自立支援のための社会支援の活用方法をテーマとした。12月11日には、篠岡、味岡圏域で開催する予定である。
- ・ 課題としては、様々な研修があり、ケアマネジャーの負担にならないよう、研修開催に向けて、関係機関が連携し、どのような研修を開催していくと良いか一緒に考えていきたいと考える。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(4) 医療・介護資源の情報収集・管理

磯村委員)

- ・ 医療・介護資源の情報収集、管理について、今年度、在宅医療に関するアンケートを9月に医師会員に実施し、回答待ちである。
- ・ この調査では、こまきつながるくん連絡帳の登録についても、盛り込んでいる。
- ・ こまきつながるくん連絡帳の登録については、既に回答が来ている中には、登録予定はないとの意見も多くある。
- ・ 理由について分からないため、聞き取りをするとともに、対応策について検討していきたい。

江口課長)

- ・ こまきつながるくん連絡帳について、提供事業者が移行したことに伴い、登録すると医療・介護マップに掲載されるシステムになっており、何とか登録率100%を目指したいと考えている。
- ・ そうした中、委員の皆さんの協力や浅井会長の協力もあり、個別訪問しながら登録支援に努めているところである。
- ・ 本日、追加資料として、こまきつながるくん連絡帳の活用状況を配布した。
- ・ 資料にあるとおり、登録率が34%であり、登録者数を増やしていきたい。
- ・ また今後、駐車場シェアシステムの構築、運用など、こまきつながるくん連絡帳の活用につながる体制づくりも充実させていきたい。

浅井会長)

- ・ 私の責任でもあるが、こまきつながるくん連絡帳の登録率が低い。
- ・ これは、根本はメリットを感じていないというところがあると思っており、もう少しメリットを見つけながら、また、逆に登録しないとデメリットがあるというように、両面でいきたいと考えている。

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(1) 医療・介護の関係団体との連携

磯村委員)

- ・ サポートセンターとして、認知症の相談を受けることが最近増えている。
- ・ 医療・介護関係者との情報共有に向け、包括とも連携を強化したいと考える。

- ・ 今後も、地域包括支援センター管理者会に参加し、相談対応の情報を共有するとともに、他機関への連絡調整など、ネットワークが必要と考える。

小林委員)

- ・ 個別地域ケア会議を各包括で開催している。
- ・ 実施に向けての課題だが、個別会議で出た地域課題を共有し、その課題解決のための資源開発、政策形成に向けた協議の場を設けていく必要があると考える。
- ・ 自宅で最期を迎えたいと希望される方は多くなっており、担当のケアマネジャーとしてサービス担当者会議を開催するにあたり、今後、ますます医療と介護の連携が重要になってくると感じる。
- ・ 個別地域ケア会議について、ケアマネジャーからの事例提供があまりない状況であり、包括が担当している事例やケアマネジャーにお願いし、提供してもらった事例で開催している。
- ・ 今後に向けては、地域ケア会議が有効であることをケアマネジャーに感じていただけるような活用をしていきたい。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(1) 医療機関と訪問看護・ケアマネジャーの連携

磯村委員)

- ・ 「医療・介護勉強会」を年4回程度開催し、在宅医療・介護に必要な基礎知識を学ぶ機会を提供している。
- ・ 訪問看護とケアマネジャーとの連携強化について、サポートセンターとしての取り組みには至っていない。
- ・ サポートセンター会議等で抽出した課題を共有し、対応策を話し合う場が必要であると考え

大野委員)

- ・ ケアマネの会としては昨年度、今年度と情報交換会等は開催していないが、各団体主催の研修会を連携の機会と考え、参加している。
- ・ 課題としては、医療依存度の高い利用者において、日常生活援助におけるアセスメントや判断が必要不可欠であることは明確であり、勉強会・研修会を通じて、訪問看護との連携をし

岡委員)

- ・ 今、言われたとおり、サポートセンターやケアマネジャー部会との連携がとれていないと感じている。
- ・ やはり、一番の要はケアマネジャーと訪問看護の連携である。
- ・ 訪問看護を在宅で推進するためには、その連携が欠かせないと意識しているが、どういう形で進めていけばよいのか分からず、訪問看護部会でも、推進に向けての意見は出てこない状況にある。
- ・ そのため、今後はケアマネの会の皆さんと相談しながら、進めていきたいと思っている。

浅井会長)

- ・ 私もずっと言っているが、訪問看護とケアマネジャーは要だと思っている。
- ・ これを進めるにあたり、ぜひとも更に歩み寄り、少しでも出来ることから築き上げてほしいと思っているので、よろしくお願いします。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(2) 副科受診の支援

浅井会長)

- ・ 副科については、少なくとも精神科は広げていきたいと思っている。
- ・ 正直、なかなか周知ができていない。
- ・ この紹介ツールについては、私自身が作成し、私だけが使っている状況にあり、他に広がっていないと思う。
- ・ 少しずつ、全ての科に広げていきたいと思っている。
- ・ 皆さんも経験があると思うが、主として内科、外科の担当が入っている場合、副科が必要なケースにおいて、苦慮しているのではないか。
- ・ こうした場合、医師から医師ではなく、看護師やケアマネジャーから、もっと言えば、利用者、患者が希望するということであれば、このツールは使ってもらいたいと思っている。
- ・ サポートセンターに依頼をかけていただければ、その辺の調整をしながらやっていきたいと思う。
- ・ 他にも、近々、泌尿器科も入れたいと思っているが、中心となる医師がいないと難しい部分もあり、悩ましいところである。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

（３）摂食嚥下サポートチームの活動支援

磯村委員）

- ・ 摂食嚥下サポートチーム：小牧ごっくんサポートチームとして、現在、29名で動いている。
- ・ チームとして、定期的に会議を開催し、今年度は「摂食嚥下評価スコア 2019」として小牧版を作成し、今、試験運用をしている。
- ・ 一部修正し、3月4日に「評価スコア 2019年度」をテーマに医療介護関係者に研修会を行い、来年度から医療・介護関係者、施設等で使っていただく予定である。
- ・ 摂食嚥下の出張勉強会については、5回シリーズで1施設において実施し、現在、2カ所目の施設で出張勉強会を行っている。
- ・ 課題としては、講師が通常業務を抱えた中での活動であり、今後、小牧ごっくんサポートチーム会議を継続しながら対応策を協議していく。

（エ）地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

（１）病院とケアマネジャーの連携

田中委員）

- ・ 私からは、ケアマネの会が実施した医療・介護連携に関する実態調査結果に基づき、報告させていただく。
- ・ 連携シートの活用状況は、利用者が入院するとき、医療と介護の連携シートを病院へ送っているかということで平成29年は54%であったが、平成30年度は79.2%に大きく伸びてきている状況である。
- ・ 次に、連携シート、サマリーを退院時にもらっているかについて、平成29年度は28%であったが、平成30年度は83.3%で活用されている結果となった。
- ・ こまきつながるくん連絡帳の活用について、まだ半数の方が活用できておらず、その理由として、事業所の方針が一番多くなっていた。
- ・ 今回のアンケートについては記名式で行っており、どこの事業所かということも分かるため、今後、個別で声をかけていきたいと思っている。
- ・ 個別地域ケア会議について、事例を提供したことがあるケアマネジャーが平成29年は46%であったが、平成30年度は52.7%で、微増である。
- ・ また、事例を提供した成果があったかについては、平成29年度は45%であったが、平成30年度は73.7%であり、ある程度成果を感じており、浸透してきたかと思っている。

- ・ 連携シートについては、ケアマネジャーが欲しい情報と一致していない部分もあり、今後、改良も見据えながら、連携していくツールとしての検討をしていきたいと考えている。

三谷委員)

- ・ 平成 30 年度は、市内 226 件の連携シートが活用されている。
- ・ 小牧市の医療と介護の連携シートについては、ほとんどの事業所で使用されていると思う。
- ・ 今年度は、4 月から 9 月までの半年で 93 件、活用されている。
- ・ 現在、ACP を少しずつ進めてはいるが、連携シートに書き切れない部分があり、そちらは ACP サマリーを当院では作成しており、そちらで連携をしていく予定となっている。
- ・ 実施に向けての課題は、先ほど田中委員の言われたように、少し質のほうの評価をしていく必要があると考えている。
- ・ また、先ほども言ったように、患者、家族の思いを地域につなげていくためにはどうしたらいいかということで、連携シートをつくっているが、そこも介護側と必要な情報をこちらからは提供していきたいと思っている。
- ・ 後、ここには書かれてはいないが、退院後に適切な介護サービスを受けられるように入院中から連携をとるということで、できればケアマネジャーにはケアプランの提供をしていただくとうかがいたいと思っている。

浅井会長)

- ・ 田中委員、先ほどの事業所の方針というのは何か。

田中委員)

- ・ 事業所の方針で、登録しないという回答が意外に多かった。

浅井会長)

- ・ しない理由というのは何か。何かやってはいけないということか。

田中委員)

- ・ そこまで、掘り下げて確認できていない。

浅井会長)

- ・ その部分を一番知りたい。
- ・ やってはいけない理由があるのか。私には分からない。
- ・ プライバシーの問題、個人情報の保護ということでだめと言っているのかもしれないが、私には分からない。
- ・ 前回の協議会において、決定したとおり、どの職種からでも投稿は可能になっている。
- ・ 実際、当院でも少ないながら、皆を招待し始めている。そうなった場合、利用していない方がいる場合、正直面倒くさい。利用してもらわないと本当に困る。
- ・ 少なくとも、事業所としてやらない方針にしている理由を知りたいと思うので、ぜひ突っ込んで調べてもらいたい。

(エ) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(2) ICT の運用 (機能強化)

江口課長)

- ・ こまきつながるくん連絡帳を活用して、本年度、モデル的に会議案内等について、皆さんに周知するようにサポートセンターに依頼し、実施している。
- ・ また、電子@連絡帳の広域化利用に向けて、今、尾張北部、尾張東部、尾張中部と連携協定をしている。
- ・ 愛知県医師会も動かれており、今後、愛知県全体に広がっていく可能性が高いと考える。
- ・ 運用の際に、不具合や不都合が生じると思う。

- ・ そうした内容については、市として関係自治体で共有しながら解決していく。

磯村委員)

- ・ 今年度 10 月から、研修案内を今までの紙等によるものに加え、こまきつながるくん連絡帳での通知も併用している。
- ・ 今後、こまきつながるくん連絡帳で行うことになるが、医療機関などの中で、登録しないと回答される方への研修案内が要るのか、検討が必要かと考えている。
- ・ 尾北の情報ツールである、メディカルケアステーションについて、尾北医師会が関わり、啓発をされている。
- ・ アンケートの結果では、登録はしていないが、情報は欲しいという意見もあり、登録に向けた啓発をしながら、登録をお願いしていきたい。

浅井会長)

- ・ 来年度からは原則、医療・介護連携事業に関しては、こまきつながるくん連絡帳でのみ実施していくことは、医師会には申し出ており、理事の中では反対は出てきていない。
- ・ ただ、磯村委員の話の中で、非常に重要なものに関しては両方でやっていくのがいいか考えているところである。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(1) 在宅医療・介護連携サポートセンターの運営

磯村委員)

- ・ 相談窓口対応について、今年度は4月から9月まで、25 件の相談や問い合わせがあった。
- ・ 相談件数としては、少ない状況ではあるが、医療・介護関係者の顔の見える関係が出来つつあり、サポートセンターを介さずに対応できていることも考えられる。
- ・ 困難事例など、相談が入ることもあり、そういう場合はしっかり対応していきたい。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(2) 在宅医療・介護連携サポートセンターと地域包括支援センターの連携

磯村委員)

- ・ サポートセンター会議を開催し、今年度から、地域包括支援センターにも参加してもらっている。
- ・ 地域包括支援センターと連携した具体的な取り組みができておらず、課題と考えている。

小林委員)

- ・ サポートセンター会議に参加したり、包括の管理者会にサポートセンターが参加しているが、お互いが活動内容を報告し合っているだけであり、具体的な取り組みなど、今後、検討が必要と感じている。

浅井会長)

- ・ サポートセンターと包括は、一番最初の情報を察知する、人間の体でいうと感覚器みたいな部署だと思っている。
- ・ 地域住民のニーズや課題などの情報をしっかりキャッチし、上手に活用していくことが今後の課題ではないかと考える。
- ・ 何か両機関でいろいろ考え、やっていただけるといいかと思っている。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

田中委員)

- ・ 地域支え合い推進員と包括が行っているサロン巡回相談について、現在、79 カ所のサロンに地域支え合い推進員と包括が連携し、巡回して相談の場を設けている。

- ・ 相談件数としては、少しずつ増えているが、活動中の相談であることもあり、相談内容が薄かったり、それらの情報をこまきつなぐるくん連絡帳で共有しているが、そこから更に深めて専門相談までたどり着くまで出来ていない状況である。
- ・ 今後、相談のあり方、深め方と、こまきつなぐるくん連絡帳の活用方法など、ネットワーク化に向けた課題があると考ええる。

磯村委員)

- ・ 西部地区のサロンに同行し、サポートセンターのチラシをお配りした時、知らなかったという市民の方が多数おみえであり、サポートセンターの周知がまだまだ不十分であると考ええる。
- ・ サポートセンターのチラシと啓発グッズを用いて、今年度、介護関係者と市民につながるように各事業所へ配布した。
- ・ また、第一病院の外来のテレビに、ケーブルテレビで放映された小牧市政だよりの映像を流し、サポートセンターの紹介をしていきたいと考えている。
- ・ まだまだサポートセンターの周知が足りないということもあり、今後、普及啓発に向けて進めていくよう努力したい。

小林委員)

- ・ 包括の認知度について、市のアンケート調査で3割弱の認知度であり、低い状況にある。
- ・ そのため、重度化してからではなく、早期に相談対応ができる機関になるよう、認知度を上げていきたいと考えている。
- ・ サロン巡回について、連携し巡回しているところであるが、包括として、待っているだけではなく、それぞれの圏域の特性にあわせて相談体制を充実していく必要があると考えており、サロン以外でも展開していきたい。
- ・ 現在、銀行や一般のお店などで相談会を開催している圏域もあり、そういった機会を増やし、包括の認知度を上げ、相談につなげていきたいと考えている。

(力) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

磯村委員)

- ・ 在宅医療・介護の勉強会について、今年度は5回、開催する予定であり、3回まで進んだ。
- ・ 比較的、参加人数は安定しており、医療と介護の連携に向けた内容で実施している。
- ・ 4回目は市民病院の認定看護師により、排せつケアをテーマにお願いしている。
- ・ 多職種連携研修については、2回開催する。
- ・ 1回目は災害をテーマにワールドカフェ方式で行い、83名の参加であった。
- ・ 2回目は、1月23日にACPとわた史ノートをテーマに開催する予定である。
- ・ 勉強会、研修会ともに医師の参加は少なく、医療・介護関係者のニーズを把握し、テーマを選定し、開催していく。

岡委員)

- ・ 看護部会では、介護サービス事業所全体を対象に、エンドオブライフ・ケアのはじまりの一步というテーマで研修を行う。
- ・ いろんなところで研修は実施されているが、果たして看護師もそうだが、どこまで分かっているか自社でアンケートしても、ほとんど知らない。
- ・ そこで、これから多死社会に向けてどうあるべきか、地域でどう支えていくのかというところを、何度やってもいいので、専門家を呼んで、遊び感覚、ゲーム感覚を取り入れながら、研修していきたい。
- ・ 日時は、11月13日18時から、約2時間程度で予定している。

- ・ 今後の課題として、訪問看護だけでなく、介護福祉サービス系は全て人手不足なわけで、どのようにその人手不足を解消していくかの検討が必要だが、現状では、対策ができていない。

大野委員)

- ・ ケアマネの会として、現在、自分たちが開催している検討会、研修会は、ケアマネジャー間のネットワークづくりや専門的技能の向上に重きを置いた内容であり、多職種連携のための情報交換等はしていない。
- ・ 先ほども言ったが、ケアマネジャーは、介護保険制度の要の職種であり、多職種連携の情報交換は必要であり、職種間の負担がかからないように調整と書いてあるように、知っていただいた情報や学んでいただきたい情報に関しては、来年度に向けては提案していきたいと考えている。

浅井会長)

- ・ 最近、ケアマネジャーから負担だとの声は、まだあるのか。

大野委員)

- ・ ケアマネジャーの中には、当然ごく一部だが、大変だとか、曜日が少しとの意見もある。
- ・ そのあたりについては、後ほど、田中委員から話があると思う。

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護連携研修、勉強会等の実施

田中委員)

- ・ 5月に五者連絡会で研修の話をしたのだが、現状として、がん末期患者など具体的なケースへの対応がケアマネジャーにもっと必要だという話が出た。
- ・ そのため、課題別の研修計画を立てる必要があることから、今年度から研修企画部会で検討中であり、具体的な対応ケースにおける連携や対応策など、今後、研修を開催していけるとよいかなと思っている。
- ・ 先ほど、大野委員が言われたように、研修過多の状態にはあるが、必要な研修をいかに効率よく組み入れていくかというところでいくと、こういった単発研修もそうだし、ケアマネカレッジについても見直しを行いながら必要な研修を行っていききたいと考えている。

大橋委員)

- ・ リハビリ連絡会では、福祉用具の美濃庄をお招きし、在宅での車椅子や手すりなど、今の選択方法について、勉強会を開催した。
- ・ 神経難病の講座の依頼をいただき、こちらも参加した。
- ・ 今後、毎年、ケアマネカレッジに依頼をいただいております、今年度も依頼があれば、お受けする。
- ・ この会員向けの勉強会については、今後も続けてやっていきたいのだが、できれば会員だけではなく、他業種の方にも参加していただくようにしていきたいが、介護部門で働いている者が中心になってやっている状況であり、医療の現場の者が何らかの形で参加し、介護の中で働いている皆さんに何か役に立つ勉強会ができればいいなと考えている。
- ・ それに向けては、毎回、担当する会員が決まっております、できるだけ若い会員の方に参加していただけるよう努力が必要かなと思っている。

磯村委員)

- ・ 同行訪問研修については、まだ実施に至っていない。
- ・ 6医療機関が同行、見学可というふうに回答をもらっており、機会があれば同行したいと考えているという回答もある。
- ・ 今後、実施に向けては、在宅医と相談し検討していく。

浅井会長)

- ・ アンケートを実施し、同行訪問研修を示しているが、音沙汰がないという状況である。

- ・ 在宅専門の方が見学したいという声はあるが、それ以外は全くないという状況である。
- ・ これについては、強制で行うわけにもいかず、引き続き、具体的にできることを示しながら進めていきたい。

（キ）地域住民への普及啓発

（１）市民向け講演会の実施

江口課長）

- ・ 市民向けの講演会について、今年度は、２月８日にまなび創造館あさひホールで開催予定である。
- ・ 内容については、こまき山劇団による「わた史ノートとＡＣＰ」をテーマにした劇を取り入れた講演会としており、多くの方に御来場いただけるよう、啓発していきたい。

（キ）地域住民への普及啓発

（２）在宅医療・介護に関する普及啓発

磯村委員）

- ・ 第一病院の外来で、ケーブルテレビの市政ニュースで取り上げられたサポートセンターの情報を放映した。今後も継続してお願いする予定である。
- ・ 事業所を訪問し、サポートセンターの啓発のため、チラシ・啓発グッズを配布した。
- ・ 今年度から、奇数月の１５日号の広報こまきの中に「在宅医療とは」としてコーナーを設け、サポートセンターの周知を実施している。
- ・ 今後も医療・介護関係者、市民へサポートセンター啓発に向けて、啓発方法を検討をする必要がある。

浅井会長）

- ・ サポートセンターのニュースについて、いろいろなところで放映してはどうか。
- ・ 市の待合など、いろいろと検討してほしい。

（キ）地域住民への普及啓発

（３）サロン等における在宅医療・介護に関する取り組み

佐々木委員）

- ・ サロンへ歯科医、歯科衛生士の派遣ということで、昨年度から私自身も話をさせてもらっている。
- ・ スウェーデンという福祉の先進国の状況を２０１１年に視察し、口腔ケアへの市民意識の高さが日本と相当差があることが分かった。
- ・ 市民のうち、定期的に歯科クリーニングを受けている人が、ある調査によると３０％から３５％である。つまり、痛くなったら歯医者に行く人である。
- ・ スウェーデンの場合、９０％ぐらいの人が定期健診に行っている。
- ・ そういう環境の中で、介護になっても継続的に口腔ケアを行うのが、当たり前になっている。
- ・ 私も、講演で話させてもらっているが、今世紀になってからいろいろなことが分かってきており、口腔内の細菌は相当悪者が多いという様々な研究が進んでいる。
- ・ 認知症や誤嚥性肺炎との関係性については、よく聞くが、それ以外にも本当にいろいろなところに関係していることが分かってきた。例えば、潰瘍性大腸炎、脳内出血にまで影響している。
- ・ そのため、口腔ケアについて、元気なうちから行動していただきたい。
- ・ 今の患者の多くは、悪くなってから受診される方が多く、そういう人たちを何とかしろと言われても非常に難しい。
- ・ また、スウェーデンでは、８０歳で入れ歯を入れている人は５％しかいない。
- ・ 日本では、９０％が入れており、根本的にやり方を間違えているとしか言いようがない。
- ・ 私は、いつも講演会で厚労省の失敗だと言っている。

- ・ この前、保健所の依頼で話をしたが、そちらで 40%程度の方が健診を受けていた。
- ・ 大企業でも健診はするが、その後の受診行動に移らないという状況である。
- ・ 学校の歯科健診でも同様である。
- ・ 今後は、若い人からやっていかないといけないなという気持ちは持っている。
- ・ サロンに向けては、今後やっていきたいと思っている。

大橋委員)

- ・ 膝腰スッキリとこまき山体操ということで、地域に出向いている。
- ・ こまき山体操については、私たちだけでなく、介護予防リーダーにもやっていただいたり、市職員、社協職員もやっていただいたりしており、この体操は、資料の回数以上に広がりを見せていると感じている。
- ・ 今後、こまき山劇団の名前とこまき山体操がもう少し広がるといいと思っている。
- ・ 課題としては、どうしても担当する者が限られてきており、依頼をいただいてから伺うというよりも、定期的を開催するというような形での展開を御相談させていただくことができれば、予め他の会員も休みをとったりすることが可能になってくると考えている。
- ・ 今の佐々木委員の話ではないが、医療と介護の連携に向けて、働く人に対してのサポートや、もう一つ言えば小学生・中学生への介護への認識に関わらせていただければ、おじいちゃん・おばあちゃんやお父さん・お母さんに対してだけでなく、もっと若いときからそういう考えを持っていただけるような形ができればいいかと思っている。

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) わた史ノートの普及・啓発

江口課長)

- ・ わた史ノートは、出前講座を地域包括支援センターにお願いして実施をしている。
- ・ 中学生の社会科の副読本ということで、わた史ノートが掲載されたので、回覧させていただく。
- ・ また、ACPとか、わた史ノート、エンドオブライフ・ケアなど言葉がひとり歩きしている現状があることを踏まえ、関係委員で「生き生き人生プロジェクト」を立ち上げ、研修等も含め、今検討をしている。
- ・ 今後、社会科の副読本を活用する中で、なかなか入れていないが、学校における社会教育の場での充実に向けた取り組みを、検討していく必要があると考えている。

小林委員)

- ・ サロンや老人会等で出前講座という形で、わた史ノートの啓発をしている。
- ・ なかなかわた史ノートの啓発をお願いしたいという声は少ないが、地域ケア会議などの中で、そういったこともあらかじめ考えておいたほうが良いと伝えながら、わた史ノートの啓発をしている。
- ・ また、出前講座では、実際にノートに記入をしていただくような構成にしている。
- ・ 今後の課題は、先ほどの話にあるように、生き生き人生プロジェクトの検討内容を理解をした上で、啓発を行っていききたい。

渡邊委員)

- ・ 熱心に講座をやっていただいている。
- ・ 訪問看護師など、参加した人から意見をいただいたことがあり、どうしてもわた史ノートの中に、看取りの延命治療の話など、少し話を分けないと一冊の中では整理しきれないというところで、市民の人が受け入れがたかったり、書きにくかったりすることが課題であると考えている。
- ・ そのあたりについて、将来的には、改訂とか分冊というような形で、もう少し整理をしていったほうが啓発しやすくなると思っている。

(ク) 在宅医療・介護に関する関係市区町村の連携

(１) サポートセンター連絡会議

磯村委員)

- ・ 今年度、情報交換会を開催している。
- ・ １０月には、尾張北部医療圏の行政担当、サポートセンター、保健所で情報交換会が開催された。
- ・ 今後も他市町との連携会議を継続していくことが必要と考えている。

(ク) 在宅医療・介護に関する関係市区町村の連携

(２) 広域連携の推進

水野委員)

- ・ 昨日、尾張北部医療圏地域包括ケア推進研修会を開催し、「地域での看取りを知り、共に考える」というテーマで多職種意見交換会を行った。
- ・ 医師、保健師、看護師、居宅介護支援専門員、理学療法士など 87 名の方に参加していただいた。
- ・ その中で、先ほどから意見があるとおりの、医療と介護の関係者の情報共有・連携ということが課題になっていたかと思う。
- ・ 行政としてこのような会議を、どのような内容で、どのように開催していくかが今後の課題になると考える。

小島委員)

- ・ こまきつながるくん連絡帳について、なかなか広まっていけない状況ということで、前も話をしたと思うが、まず、成功事例というか、有効活用例があるのかどうか。
- ・ あるとしたら、それを何かの形にして示してもらうことで、もしかすると今まで参加に後ろ向きであった事業所、あるいは医師にも、参加してもらえるかもしれないということを、少し思った。
- ・ また、浅井会長が言われたように、こまきつながるくん連絡帳に参加することがメリットだけではなく、参加していないことのデメリットも少しずつ設けていかないと、登録者数は増えていかないのではないかというふうに感じた。

(２) その他

- ・ 介護保険課：伊藤課長から、地域ケア会議の開催案内。

【閉会】

【次回会議開催予定】

- ・ 令和 2 年 3 月 26 日（木）午後 3 時から 小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室